

# ここ 今、福島大学でしか学べないものがある

福島の課題は世界の課題でもあります。現実を直視し、グローバルな視点から問題解決力を磨き、文理融合のもと専門分野の枠を超えた思考力を武器に果敢に挑戦する、実践力を修得した人材を育成したいと考えています。

## 1. 学類の活動から

### ◆ 人間発達文化学類 福島県立ふたば未来学園高等学校で学習支援をしました ◆

平成27年4月に広野町に開設された福島県立ふたば未来学園高等学校で、人間発達文化学類・研究科(大学院)の学生有志が高校の寮に泊まり込み、放課後や就寝前の自由時間に数学や英語等の学習支援を行いました。学生たちは、これまでも子ども支援プログラム「遊びと学びの教室〈未来のたね〉」を通じて被災地の小・中学校の子どもたちを中心に支援を行ってきましたが、高校生への本格的な学習支援は新しい試みです。はじめは、高校生にも戸惑いがみられましたが、積極的に声をかけることによって生徒たちも打ち解けて話をしてくれるようになり、学習に集中して取り組んでいました。教員志望の学生たちはこの活動を通して、これまで学んできた教科に関する知識ばかりではなく、生徒の意欲を引き出す指導力などの大切さを実感し、教員になる夢に向かってますます頑張っています。



ふたば未来学園高校での放課後学習支援

### ◆ 行政政策学類 第3回「集まれ！ふくしま子ども大使」企画始動！ ◆

行政政策学類の鈴木典夫教員を団長に、「集まれ！ふくしま子ども大使」の企画・準備が着々と進行しています。本学類と福島大学災害ボランティアセンター、およびアサヒグループとの産学連携事業として3回目を迎えるこのイベントでは、夏休みの会津を舞台に、全国の子どもたちと福島の子もたちがそれぞれの地域の「大使」として交流をします。寝起きをともにし、野や湖で身体を目いっぱい動かして、名物料理に舌鼓を打ち、貴重な体験を積みながら、元気と勇気を分かち合う数日間を通して、今後も長く続く関係を築いてもらえたらと考えています。被災地の復興支援を継続している学生たちも、子どもたちを迎え、見守る準備をしながら、ちょっぴり自身の童心も刺激されているようです。



福島の子もたちと全国の子もたちと

### ◆ 経済経営学類 産学連携による地域課題への取り組み ◆

福島大学と東邦銀行が産学連携の一環として、平成20年3月に地域戦略研究会(旧:会計戦略研究会)を立ち上げ、以来、社会人と学生が定期的に勉強会を開いています。地域経済の抱える諸問題とその解決策や、地域経済の活性化のために果たすべき役割について考え行動することを目的としており、年末には1年間の成果として一般市民を対象に地域戦略フォーラムを開催しています。

これまで、「福島の復興を考える」、「組織作りは人なり・街づくりは人から」、「25年後の福島・東北を考える」など様々なテーマを取り上げており、平成26年度は、「ICT社会の現状の未来」と題して、伊藤宏ゼミ生を中心とした学類生と東邦銀行の方々による講演が行われました。



地域戦略研究会の風景

### ◆ 共生システム理工学類 スーパー微生物触媒「酵素」で産業貢献！ ◆

杉森研究室では、産業に役立つ「生体触媒(酵素)」を開発することを目指した基礎研究を行っています。例えば、病気を早期発見するための臨床診断薬用酵素や、小麦粉を改質してパンや麺を美味しくする食品加工用酵素などの研究です。「世界初の酵素を探そう！」を合い言葉に、学生、企業研究者とともに研究を進めています。

本学には、ゲノム解析装置など最先端バイオ系解析装置が充実しており、これらの装置をフル活用して酵素の触媒反応機構の解明まで行います。化学をベースにしたバイオテクノロジーを学べる環境が整っており、研究室出身の学生の多くが、研究職や技術職として企業で活躍しています。一緒に世界初の酵素を探してみませんか？



学生の研究風景

## 2. 東日本大震災を契機とした学びから

### ◆福島の今を見て、感じて、楽しんで、学ぶ！「みらいバス」が大学と地域をつなぐ

福島大学独自の特修プログラムである「ふくしま未来学」(COC事業)では、地域再生を目指す実践的教育の一環として、平成27年4月より毎月県内の自治体にバスを出す日帰りスタディツアー「みらいバス」を始めました。この取り組みでは、学生だけでなく教職員にも広く呼びかけ、全学的に地域に出向く機会を提供しています。これまで、川内村の春祭り、葛尾村の村民運動会、二本松市東和地区を訪れ地域の方々と交流を深めました。ツアーに参加した学生からは「楽しかった。自分の地域を見直すきっかけにもなった。」、地域住民の方からは「若い人たちが来てくれて元気が出た。継続的に地域に関わってほしい。」などの声が寄せられています。「みらいバス」をきっかけに、県外出身の学生はもちろん、県内出身の学生も福島の新たな魅力を発見しています。



川内村の春祭りにおける  
住民との交流

## 3. お知らせ

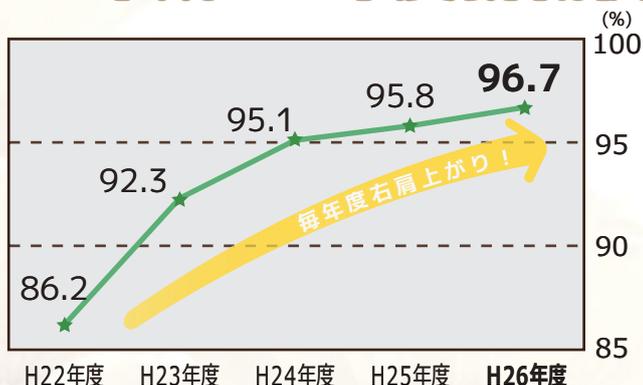
### ◆福島大学附属図書館 新しく生まれ変わった図書館で快適に勉強しよう！

福島大学附属図書館は4階建ての新館を増築し、平成27年7月に明るく広い図書館に生まれ変わりました。県内でも有数の蔵書数(約90万冊)を誇り、学生が学習するための各分野の本、震災・復興関係の資料、大学院生や教員の研究に必要な専門書・学術雑誌の他、文献を集めるためのデータベースや、雑誌論文をパソコン上で読める電子ジャーナルなども揃っています。また、レポート作成等に使えるパソコンエリアや個人で静かに勉強できる場所、グループで議論できる会話可能なエリアなど多様な学習環境が整っており、毎日多くの福大生で賑わっています。



館内ラーニングcommons1  
(学習エリア)の様子

## 4. 平成26年度就職状況について



平成26年度 就職率 **96.7%**※

※就職率(%) = 就職者 ÷ 就職希望者(就職者 + 未定)

平成26年度福島大学卒業生の就職率は、全学再編(2学群4学類)後最高の96.7%となりました。大学では就職活動交通費の一部補助や就活バス運行等の取り組みを行っており、就職率は経済状況悪化の影響を受けて落ち込んだ平成22年度から右肩上がりとなっています。

卒業生の詳しい就職・進路状況は  で

## 5. 放射線への取り組みから

### ◆放射線への取り組みの公表◆

福島大学の放射線へ関する取り組みや毎月のキャンパス内放射線計測データは、HPからご覧になれます。

#### ★福島大学放射線に関する取り組み

<<http://www.fukushima-u.ac.jp/guidance/top/torikumi-housyasen.html>>

#### ★福島大学キャンパス内及び附属学校園の放射線計測データの公開

<<http://www.fukushima-u.ac.jp/guidance/top/fukudai-housyasen.html>>